研修報告書

山根兼三郎

令和5年5月9日

リファレンス新有楽町ビル

「持続可能な歳出削減策」

講師　村山祥栄

【概要】

「アフターコロナの議員目線　夕張からの警鐘　持続可能な歳出削減策」というテーマで、事例として夕張市の財政破綻について、詳しい説明があった。

・夕張の財政破綻は、炭鉱の閉鎖による市の閉山処理費用が莫大になった。その後に「炭鉱から観光へ」というスローガンの中田市長が観光戦略にかじをきって、6期24年で観光事業176億円投入したことで、当初は大成功したかのように見えたが、第3セクターの粉飾決算で、ヤミ起債（トンネル）公社での借り入れが莫大になったことにより財政破綻しました。

原因として①中田市長の経営の失敗〈長期政権の弊害）、②チェック機能の不在（監査委員、議員の責任）、③住民への説明不足をあげていました。

・財政再建は歳出ベースでやるべし。ということで、歳入と歳出のバランスを見直さない限り、財政再建は永遠にできない。

・金を借りてモノを作る時代は終わった。

民間連携とは、行政と民間とが連携して、より効率的で質の高い行政サービスの提供を目指すという考え方で、PFIやPPPはそれを実現するための代表的な手法の1つ。いろいろな事例を上げて紹介されていました。

・行政組織の人事評価のことについて触れていました。

・DXは社会全体を変革する動きであり、自治体DXに加え、街全体のDX化を進めねばならない。

【感想】

　現在監査をしている中で思うことは、財政の健全性を保っていくことが、持続可能な行政運営には必要である。ここ近年江津市の財政は良くなっていて、島根県内では平均レベルになってきた。しかながら、全国水準から比べるとまだまだ低く、これから地域間格差が広がっていくのではないかと危惧している。江津市は小規模自治体であるのことからでやりくりの範囲が狭いこともあり、将来債務負担等を厳しく律していかなければならない。